

会 議 録

平成 26 年 2 月 20 日 調製

審議会等名	平成 25 年度 第 3 回 図書館協議会
公開の別	全部公開
開催日時	平成 26 年 2 月 10 日(月) 午後 2 時～3 時 50 分
開催場所	三条市立図書館 2 階 視聴覚室
傍聴者の有無	有
出席者氏名	<p>【協議会委員】</p> <p>宮島泉委員長 五十嵐章雄副委員長 山川幸治委員 石川和子委員 本井晴信委員 田村光子委員</p> <p>【説明のための職員】</p> <p>金子生涯学習課長 金子生涯学習課長補佐 渡辺文化振興係長係長</p> <p>【指定管理者】</p> <p>高須館長 菊崎業務責任者 佐藤副責任者 竹内副責任者 村山副責任者</p>
協議題	<p>(1) 平成 25 年度 4 月以降の利用状況について</p> <p>(2) 平成 26 年度の事業計画について</p> <p>(3) その他</p>
生涯学習課長	(あいさつ)
宮島委員長	協議題(1)「平成 25 年度 4 月以降の利用状況」についての説明を求めたい。
図書館長	(「平成 25 年度 4 月以降の利用状況」について説明)
宮島委員長	ただいまの説明について、質問や意見があれば発言ください。
山川委員	多様な事業に取り組んでいることに驚いている。それでも利用者数が減っている原因を端的に言ってどのように思っているか。
図書館長	<p>言い訳になると思うが、まず、本離れを止めようがないと思っている。ここ 10 年ぐらいい出版不況と言われており本が売れなくなってきている。</p> <p>皇太子さまのご結婚と、その後の東京オリンピック辺りからテレビの普及が進んで生活時間に占める活字と触れる時間がテレビに奪われることになった。出版界もかなり危機感を持っていたが、活字文化は脆弱な文化ではなく、この危機を乗り切った。</p> <p>そして、次にパソコンが登場した。</p> <p>人が活動している時間は限られている。学校へ行ったり仕事をしている以外の何を自分の時間に割り当てるかということになる。寝て、食べてという時間を差し引いて残った時間は1日4～5時間くらいになる。テレビを1時間見て新聞を読んでという、あと1時間半から2時間ぐらが残る。それを読書の楽しみに当てていた。そこに、パソコンが入って来た。夢中になってやっていると読書の時間は30分くらいになってしまう。</p> <p>さらにパソコンでいろいろな情報を見られるようになった。インターネットを始めると30分や1時間が簡単に過ぎてしまう。そこで急激に出版が危なくなってきた。</p> <p>総じて、本に親しむ時間と機会が非常に減ってきている状況にある。</p> <p>それに伴い出版社も良い本が出せなくなってきている。本格的な文芸作品などが</p>

	<p>売れなくなってきた。そこで、図書館で手に入れられる本も限られてきている。売れている本は実用書等が多いため、インターネットでも類似した情報が得られるということになり、図書館まで行かなくてもインターネットの情報で済ましてしまう若い世代が増えている。</p> <p>小学校の中学年ぐらいまでは、本に対する興味を継続させることが出来ているが、そこから先、受験と部活により大きなエアポケットみたいなところに落ち込んでしまう。そこを脱して大学生ぐらいになっても本に戻ってこないという状況にある。少なくとも受験勉強をしっかりやっていれば、親御さんも本を読まなくても怒らない。その辺の世代をどう繋ぎ止めていくか。その方策をどう取るか。</p> <p>あとは、社会的な経験を積んで見識もある方に、忙しいプライベートな時間を本に割り当てていただく機会を増やしていかなくてはいけないと思っている。どこまで有効性があるかは心もとないが、大人向けの朗読会や「今日は何の日」をはじめ特集本の展示を工夫することに取り組んでいる。「図書館は知の殿堂として良いが、いつ行っても同じだ」というのではなく、たまに行くと変わったことがあると感じていただきたい。大人の方にも活用していただく方策として取り組んでいる。</p> <p>それと、生涯学習課長の挨拶の中でナクス・ミュージック・ライブラリーを紹介していただいた。これは、ナクス社のホームページに自宅のパソコンからアクセスして、図書館で発行する ID カードとパスワードを入れてサイトに入り、インターネットに接続しながら音楽が聴けるというサービスを提供している。なお、そこで聴くことができる音楽を自分のパソコンに録音することはできない。先ほど言った活字離れをしていく世代、中学校、高校から大学というところもカバーできる魅力あるサービスではないかなと思いはじめさせていただいた。ところが、図書館向けの音楽ということでクラシック中心となっている。昔のいい音源はあるが、それを CD という媒体で提供しても売れない実情があり、ナクス社は、それらを活用して質のいい音楽を提供している。ただし、AKB 等が聴けると中学生・高校生の方に喜んでいただけるかもしれないが、クラシック中心なため利用が思うように進んでいない。どういう方策が取れるか苦慮しながら普及に取り組んでいる。</p> <p>このように、図書館利用が落ち込む年代があることは認識しているつもりであり、そこにどう働きかけていくかが課題だと思い、取り組ませていただいている。</p>
山川委員	<p>学校でも図書室を利用する子どもが減っている。今の説明にあったとおり、いろいろなメディアがある。高学年でスマートフォンを持っている子どもがいる。ネットに繋がるので、そちらから情報を得ることが次第に多くなってきている。本離れというのは、本当に注意していかなければいけない。</p> <p>本年度 8 月の図書館の貸出実績数において、子どもの利用数がすごく減っていることに驚いている。学校でも休みのときに読書を薦めている。図書館の本を何冊といったように言っている。それにしても、この落ち込みが著しいことに驚いている。</p>
宮島委員長	ほかにあれば発言ください。
本井委員	今紹介があった「今日は何の日」の特集展示は分館でも同様に行っているのか。
図書館長	分館では実施していない。
本井委員	紹介している本が分館になくても、館を問わず掲示するべきだと思う。少しでも本

	<p>への興味を惹くことは何でもやってみるべきだろう。先のことばかり考えて一歩が出ないといったジレンマに陥ることなく取り組んでもらいたい。大変いい試みだと思う。</p> <p>表紙を見るだけでも面白い。いろいろな人が本を作ることに関わっている。特に装丁では、有名な画家や絵本作家など思いがけない人が手掛けている場合がある。著者と装丁者との人間的なつながりも伺われる。調べてみると面白いことが分かるのではないか。これは図書館の職員でないとできないことだと思う。装丁を間近かに見ながら仕事をしていることを活かして、興味が沸く展示を試みてはどうだろうか。</p>
図書館長	課題としたい。
宮島委員長	ほかに意見や質問があれば発言ください。
五十嵐副委員長	<p>いろいろな事業を展開しているが、それらの広報はどのように行っているのか。「三條新聞」と「広報さんじょう」に図書館の新作図書が掲載されている。私が知っている限りでは活字媒体だけしかない。それらは能動的に読むように努めないと情報が得られない。例えばラジオやテレビを含めた媒体の活用について、現状や考えを聞かせてもらいたい。</p>
図書館長	<p>ご指摘のように図書館の広報は活字媒体がほとんどである。「広報さんじょう」に図書館からの情報の掲載枠があり、その月のイベントなどを載せている。</p> <p>ほかに、音声メディアでの広報を FM 番組の「いっしょに生涯学習」で行っている。携帯やパソコンで見られるものとして「ひめさゆりメール」で情報配信している。これらの他にも広報を行っている。</p>
生涯学習課長	読書だよりみたいなものか。
図書館長	<p>図書館のカウンターなどに本館と分館の行事予定を掲載したものを置いている。印刷物以外では、FM 番組とメール配信ということになる。</p> <p>資料館の催し物に、長岡のケーブルテレビの取材が来たことがある。また、ホームページで紹介していただいたこともある。ただし、定例で広報しているのは先に紹介したものとなる。大きな行事がある場合はプレスリリースを行っているが、相手方の取材待ちということになってしまう。</p>
生涯学習課長	学校だよりもある。
図書館長	皆さんのところに情報が届くように努めさせていただきたいと思っている。
五十嵐副委員長	せっかく良い行事を行っているので、もっと参加人数が多くなることを望んで質問した。
本井委員	<p>どこでどういう方法で一般向けに広報するかということで、新聞の紙面に展開してもらうことに自身でも取り組んできた。だが、「新潟日報」や「三條新聞」に掲載してもらえば目に届くかという疑問がある。どうも読者層が限られているのではないかという気がしてならない。やはり、来る人は高齢者が多いという印象がある。読者層に偏りがなければ調査してみる必要がある。</p>
図書館長	媒体の特質に着目して広報に関する方策を考えるようにしたい。
宮島委員長	ほかに意見や質問があれば発言ください。
五十嵐副委員長	入館者数について、自習室に来る人たちは数に入っているのか。
図書館長	図書館入口の赤外線カウンターで自動的に記録している。利用用途までは記録で

	きておらず単純な人数の取り方をしている。
五十嵐副委員長	自習室を拡充すると入館者数が増えるのではないか。
図書館長	残念なことに、学習室を利用するだけの方もいる。玄関を出入りする際に書架に寄ってもらうよう工夫が要ると思っている。ティーンズ向けの本を収めた棚を入口の方に持って来て、その世代向けに目を惹くように工夫している。だが、受験生は目もくれずというところであり、何とか工夫を重ねたいと思う。
宮島委員長	ほかに意見や質問があれば発言ください。
田村委員	図書館のサービスは、今まで子ども向けのお話し会などが多く行われて来た。今度の報告を見ると大人向けの朗読会とかが出てきた。大人の方も図書館に足を運んでいただけるというような、良い方向に向っていると思う。 大人向けの怪談の朗読は、どのような話しをしたのか。
竹内副責任者	初めての試みだったのでスタッフだけで行った。大人向けの怖い絵本というのがあり、宮部みゆきさんと京極夏彦さんなど、ホラー系の著作もある作家の方が大人向けの怖い絵本を書いている。それを1冊朗読した。もう1点、正統派として小泉八雲の「怪談」を朗読した。
図書館長	本館2階視聴覚室にパイプ椅子を並べて、その前に朗読者用の机を配置した。その上に朗読用のスタンドを置いて、それを黒いラシャ紙で覆って場内をなるべく暗くするようにして雰囲気盛り上げて実施した。
田村委員	とても面白そうだったと思った。下田の方でも子ども向けに怪談みたいなのをやっている。できれば取り入れていきたいと思っている。
宮島委員長	ほかに意見や質問があれば発言ください。
本井委員	柳田国男さんの「遠野物語」なんか適当だと思う。意外と雰囲気が出る。
宮島委員長	是非続けてもらいたい企画だと思う。
図書館長	続けるようにしたい。
宮島委員長	「三条マルシェ」への参加は、新しい発想で思ってもみなかったもので、とても良いことだと思う。素敵な車で走っているだけで目につく。こちら辺では意外と見る機会がないので、人が出るところに出掛けて行くのは良いことだと思う。また、「三条マルシェ」用に本を選んで積んでいったという話しも聞いた。需要に応えるよう努めていることが分かった。これからも楽しく続けてほしい。
図書館長	ちなみに、グリーンのアウトドア用のテント二張りを実行委員会から借りて、その下にパイプ椅子を並べた。そちらで親子や若い方に本を読んでいただいた。自動車文庫の両脇は外から見る事ができる本棚になっている。そこに、先ほど本井委員からお話しがあったような、表紙を見ても面白く目に留まる本を並べた。若い方に、「自分たちにとっても面白い本が図書館にある」ということをアピールする機会にもなったと思っている。
宮島委員長	その場で利用者カードは発行したのか。
竹内副責任者	その場では発行しませんでした。
宮島委員長	「三条マルシェ」もだが、「ブックスタート」でも会場で発行できると良いと、前から意見が出ていたと思う。その場での発行は難しいことだろうか。何か工夫ができないか。

	人が集まって、「いいな」と思っても、その場で借りることができなければ勿体ない。
菊崎業務責任者	<p>「ブックスタート」に関しては、図書館からの案内が検診の最後になることから、早く帰りたいと思われる方が多いなかで、利用者カードを作る時間を取るのが難しいため現在は実施していない。</p> <p>「三条マルシェ」については、今回は初めの参加ということもあり、カードを作るに当たって個人情報を取り扱うことから、安全面に配慮して実施しなかった。来年度以降、検討して行きたいと思っている。</p>
宮島委員長	試みるよう努めてもらいたい。
石川委員	<p>「ブックスタート」について、その10ヶ月前に、「これだけの本があるので、次の10ヶ月検診までに選んでおいてください。または見ておいてください。」という案内が来ている。その際に、申込用紙のような記入できるものを提供できないだろうか。</p> <p>実際には、10ヶ月検診の時に、その場で4冊くらいの中から選んでいる。絵本を手に入れ、それを契機に図書館に行くようになれば良い。</p>
図書館長	ご提案のようなことに考えが及んでいなかった。「ブックスタート」会場での案内だけを考えていた。案内する機会を複数回設けることができるか検討したい。
石川委員	赤ちゃんは絵本が大好きなので、図書館の案内を契機として、お母さんも絵本を積極的に探すことになると思う。
図書館長	その機会を大事にして行きたいと思う。
石川委員	図書館では楽しいことを沢山企画している。広報などを見て、「こんなのをやっているんだ」と思うが機会を逃してしまっている。私の方の保育所でもPRするようにしたい。
図書館長	よろしくお願ひしたい。
宮島委員長	協議題(2)「平成26年度の事業計画」についての説明を求めたい。
図書館長	(「平成26年度の事業計画」について説明)
宮島委員長	ただいまの説明について、質問や意見があれば発言ください。
本井委員	<p>職員の方々が普段の仕事で忙しいのは分かる。だが、積極的にアピールしに出掛けて行くことも必要になる。来る人だけを相手に待っているのでは埒があかない。そのためにも、いろいろなことを普段から考えなくてはいけない。</p> <p>図書館に収蔵されている資料を最大限に活かすための研修を寸暇を見てやってもらいたい。報告書にも、それを反映してもらいたい。報告書に研修という項目がない。</p>
図書館長	口頭での説明だけで報告書には記載していなかったが、自主的に企画した研修にも取り組んでいる。
本井委員	是非、報告してもらいたい。手伝えることがあるかもしれない。
宮島委員長	ほかに意見や質問があれば発言ください。
山川委員	資料No.5「3 事業計画」の「学校等における読書活動支援の強化」がある。本年度もいろいろな場面で学校を訪問し、子どもたちに読書意欲を喚起する機会を提供して来たことに感謝したい。
宮島委員長	ほかに質問や意見があれば発言ください。

五十嵐副委員長	活字の天敵と思われるパソコンの導入について、計画とか何か考えるところがあれば聞かせてもらいたい。
図書館長	<p>インターネットを閲覧できるように本館と分館にパソコンを用意している。市民の生活や生涯学習に役立つものであれば、活字媒体でなくても図書館で提供して行くことが使命だと思っている。その機会を制限したり減らそうとは考えていない。ただし、今のところパソコンの台数を増やすことは考えていない。</p> <p>一方、インターネットを利用して取得できる情報の幅を広げて行くことを検討している。例えば、新聞社がインターネットを通して過去の記事を有料で提供している。ただし、契約して料金を支払う必要がある。インターネットに繋がるパソコンでの閲覧していただくことも検討したい。</p>
宮島委員長	意見があれば発言ください。
本井委員	先日、東公民館と三条市歴史民俗産業資料館で岩田正巳さんの展覧会を観た。今度、長岡の新潟県立近代美術館でも大きな特別展が開催される。これは千載一遇のチャンスだと感じている。ここで何か関わる企画を行うと良い。岩田正巳さんに直接関わるものでなくても、日本画、美術教育、絵の具など美術全般に関する図書の紹介が出来ると思う。いわゆるワークシートのような系統立てた図を添えた資料を用意するのも良い。機会を捉えて試みてはどうか。
図書館長	<p>現在、本館 1 階のカウンター前の特集本コーナーで岩田正巳画伯と日本画に関する蔵書を展示している。</p> <p>本年 1 月に、生涯学習課主導で「岩田正巳生誕 120 周年記念事業」として東公民館と三条市歴史民俗産業資料館で作品展が開催された。これに引き続き、記念事業の一環として明日から三条市歴史民俗産業資料館で、岩田正巳画伯の繊細な描線に着目した作品展を開催する。そこで、三条市歴史民俗産業資料館からの要請もあり、図書館本館で特集本展示を行っている。</p> <p>また、昨年 6 月に三条市歴史民俗産業資料館主催で新潟県立近代美術館の学芸員を講師としてお招きして、図書館本館 2 階で岩田正巳画伯の画業に関する講演会を開催した。</p> <p>このように、地域の文化に関する情報提供や、それらへの興味を高めていただけるような試みや工夫に努めている。</p>
宮島委員長	協議題(3)「その他」の事項で、何かご意見や通知などがあれば発言ください。
生涯学習課長	(栄分館を更に魅力ある施設とする方策、図書館システムの更新、この 2 件の施策を来年度実施に向けて鋭意検討中であることを通知した。)
宮島委員長	ただいまの通知について、質問や意見があれば発言ください。
山川委員	<p>栄分館でしかけ絵本を収集するとの話があった。大賛成である。射水市に絵本だけの図書館があり、実際に訪問したことがある。結構大きいけど、絵本に特化していて子どもや親子連れがひっきりなしに訪れている。いろいろな絵本がいっぱいあり、子どもたちが大勢来て、とても良かった。強烈な印象がある。また、絵本コンクールもしくは自作絵本コンクール展があったと思う。</p> <p>子どもの絶対数も減ってきている。図書館経営において万人向けというのも大事だが、これからは何か特化したものがあるのは魅力的だと思う。</p>

生涯学習課長	鹿児島県の出水市ですか。
山川委員	富山県の射水市です。 噴水も面白いものだった。暑かった日なのだが、いろいろな噴水が電子制御されていて、子どもたちが表で遊んでいた。とても強烈な印象だった。
宮島委員長	図書館システムの更新に伴い、特別整理期間が本年度と違い開始が早くなっている。期間が長くなっている。
図書館長	図書館システムを新しいものに更新するためには、貸出をはじめとする処理を完全に止めなくてはならない。そこで、本年度より繰り上げて開始することで期間を長く取っている。 その作業と併せて特別整理期間として蔵書点検を行う。本館、分館及び分室を合わせて 33 万点ほどの蔵書がある。それらの全てに貼付されているバーコードを逐一読み取ったうえ、システムの台帳と照合する。現物が誤りなく管理されているか 1 年に 1 回総ざらいしている。そのため 10 日くらいの期間を頂戴している。 そこで、来年はお正月が終わり 1 週間くらいで休館することになる。
宮島委員長	3 週間は長くないか。
図書館長	この期間に、このような 2 つの大きな作業に当たらせていただき終えるようにしたい。まず、協議委員の皆様へ報告のうえ了解していただきたく提示した。
宮島委員長	本年度と同様に学習室は開放するのか。調度、センター試験の真っ最中と重なる。
生涯学習課長	開放させていただく。
宮島委員長	是非、お願いしたい。
図書館長	了解しました。
宮島委員長	今までになく長い期間となるので、早くから周知するように努めてもらいたい。図書館を常に利用している方には不便かと思う。
図書館長	本年度の整理期間においても学習室は開放していたので、お年寄りの方などに「本ぐらい読ませてくれてもいいじゃないか」と言われた。だが、それに応じると蔵書点検の作業が滞ってしまうためお断りさせていただいている。 このようなことがあるので、早くからお伝えするように努めたい。
宮島委員長	適切な対応を求めたい。
図書館長	了解しました。
宮島委員長	これをもって、平成 25 年度の第 3 回図書館協議会を閉会とする。